

経営理念

“進化と継承”

先人が築いた美濃和紙づくりの文化を未来へ

- 一、美濃和紙文化を継承し後世へ伝える使命を遂行します
- 一、社会に貢献できるよう考え行動します
- 一、お客様に満足していただけるよう日々考え行動します
- 一、取引先に喜んでいただけるよう期待に応えます
- 一、自らの豊かな生活を目指します
- 一、変化に対応して、成長し続けます

会社概要

創業	天保6年(1835年)9月
設立	大正8年(1919年)9月
資本金	2000万円
従業員	49名(2020年2月現在)
本社所在地	〒501-3784 岐阜県美濃市御手洗23番地 TEL(0575)37-2319 FAX(0575)37-2193
ホームページ	https://www.furukawashiko.com
支店	東京支店・大阪支店



沿革

1835
天保6年

創業。
初代古川幸助が『古川商店』を創業し、
美濃国産紙の「商い」を始める



■旧本社屋

■1929年の社内の様子

1929
昭和4年

五代目古川幸助が美濃和紙特産の
薄い雁皮紙を使用し鉄筆用謄写版原紙の
製造を開始し、全国各地に販売

1940
昭和15年

社名を現在の『古川紙工株式会社』に変更

1963
昭和38年

美濃和紙を主体とした、
便箋、ぼち袋、書道用和紙工芸品、
写経用紙、半紙、画仙紙等の製造販売を始める



■当時の看板

■1959年の社内の様子

1970
昭和45年

タイプライター原紙を製造開始、「リバティールブランド」にて
軽印刷業界、事務機器業界に販路を拡大する。
その後、教材用紙製品を製造する
(グラブロール、FAX原稿用紙、作文原稿用紙等)

1999
平成11年

古い和紙の倉庫を利用して、直営の
小売店『紙遊』を開店する



■1999年 直営の小売店(紙遊)開店

2007
平成19年

WEBオンラインショップを開設する

2009
平成21年

設立90周年を迎えて
今後の5ヵ年計画を発表

2014
平成26年

新社屋が完成



■2014年 新社屋完成

2017
平成29年

東京支店開設

2018
平成30年

年賀状商材の製造販売を始める

2019
令和1年

大阪支店開設

古川紙工株式会社

美濃和紙の産地から 全国、全世界へ

「不易流行」の精神で事業を展開していきます

業務内容

プロダクト事業：紙製品の企画、デザイン、製造、販売
店舗運営事業：紙製品の小売販売
W E B 事業：紙製品のインターネットショップ販売

企画から製造、販売、出荷まで一貫体制



弊社の強み

- 美濃和紙商材の取り扱い数全国No.1
- 自社オリジナルのデザインを作ることができる
- スピード対応
- 売り場のご提案、陳列商材などのトータルプロデュース
- お客様のニーズに応える、きめ細やかなサービス



取り扱い商材

- 便箋・一筆箋・ミニレター・レターセット
- 祝儀袋・のし袋・ぼち袋・袱紗
- フレークシール
- おりがみ
- 朱印帳
- 写経・書道・はがき など

特注品（オリジナル商品）の制作

弊社の特注品は、文具店・書店・雑貨店のお客様はもとより、一般企業やメーカー、団体の皆様、学校・市などの公共機関様、美術館様、大手百貨店様など、幅広い業種・業態の方々にご利用いただいております。自社のオリジナル商品としてはもちろん、販促キャンペーンをはじめとして、新規オープンや設立・創立、周年記念、ご入学・ご卒業など、ノベルティグッズがお役に立てる機会にご利用いただいております。



資料提供/株式会社きさらぎ 妖怪舎様

- 良質な美濃和紙を使った、オリジナル商品の提供
- 弊社デザイナーによるオリジナルデザイン作成
- 小ロット対応
- 印刷、製造、アッセンブリーなどスピード対応できる体制を整えています

天保六年創業 古川紙工株式会社は、一三〇〇年の歴史を紡いできた美濃和紙とともにこれからも皆様の暮らしの中に息づくモノ作りを目指していきます。

様々な事がデジタルに移行していく中、今求められている人と人との温かい繋がりが、古川紙工は、一人ひとりの大切なものを繋いでいく暮らしの紙モノを作っていくしたいと思います。

相手を想い、気持ちを綴るお手紙。お祝いを贈るご祝儀袋やぼち袋。贈り物に添える一筆箋やメッセージカード。どれも相手を想う優しい心を伝える素敵な場面。

そんな場に弊社の商品を使っていたただける事こそが私たちの一番の喜びです。

日本の紙との暮らしを見つめ、現代の暮らしに合った紙の可能性を求め、表現する素材として、紙の機能を活かして。

紙のチカラ——紙でなければできないこと、紙の新しいカタチを発信していきます。

古川紙工株式会社

美濃和紙

日本三大和紙産地
(越前和紙・土佐和紙・美濃和紙)



ユネスコ無形文化遺産
(本美濃紙・石州半紙・細川紙)

1300年の伝統と歴史

美濃和紙の紀元は、およそ1300年前、天平9年(737年)ころ。奈良時代の「正倉院文書」の戸籍用紙が美濃和紙であったことが記されています。和紙の生産に必要なものは、原料である楮、三椏、雁皮がとれること。そして良質の冷たい水が豊富にあることです。

美濃は、その二つの条件を満たしており、しかも都にも近かったため、和紙産地として栄えました。

美濃和紙の中でも本美濃紙は、上品な色合いと、薄くても布のように丈夫で陽の光に透かしたときの優雅な美しさから、江戸時代以来最高級の障子紙として高く評価されてきました。

長い歴史の中で伝統の技を受け継ぎ、本美濃紙は昭和44年に国の重要文化財に指定されました。また、平成26年には、ユネスコ無形文化遺産(人類の無形文化遺産の代表的な一覧表)に日本の手漉き和紙技術(石州半紙・本美濃紙・細川紙)が登録され、世界的に評価されるようになりました。

2020年には美濃和紙の手漉き和紙が東京オリンピックの賞状として採用されています。